



## ご挨拶

国際ロータリー第2600地区 2017-2018年度

### ガバナー 関 邦則

国際ロータリー第2600地区2017-2018年度ガバナーとして、地区会員の皆様にご挨拶申し上げます。

本年度のイアン H.S.ライズリー RI会長は、オーストラリアのサンドリングラムRCの方で、スポーツや音楽が好きなフランクな方だとお見受けしました。RIテーマは、「ROTARY: MAKING A DIFFERENCE (ロータリー: 変化をもたらす)」と発表されました。

RIでは、すでに戦略計画を提唱推進していますが、本年度のRIテーマもその大きな方針に沿ったものとなっています。親睦からはじまったロータリーは、R財団設立によって奉仕の道を歩いてきました。大きな力を注いできたその奉仕活動は、偉大な成果であるにも関わらず十分に理解されているというわけではありません。現在のロータリーが置かれている状況は、決して楽観的なものではないと思います。今後のワールドワイドな社会問題や環境問題をみたときに、ロータリーはさらにパワーアップしていくことが望まれています。そういった意味で、会員増強は永遠のテーマなのかもしれませんが、自分たちの歩んでいく先を見据えた奉仕の内容やそれにふさわしい人材を増強することが必要になってくるでしょう。2016年の規定審議会で「柔軟性」と言われる方向での大きな改革が決定されました。今年がロータリーの改革元年とでもいえるべき年にあたると思います。コミュニケーション手段の急激な進化は、ロータリーの組織や活動に大きな影響をもたらすでしょう。

「変化」という言葉には、二つの解釈があるかもしれません。一つは「変わる」という変化で、もうひとつは「変える」という変化です。「変わる」の主体

は自分自身です。「変える」の目的は、社会ということになるでしょう。ロータリーは、自分自身も変わりながら社会も変えて行こうとしているのです。私は、RIテーマを聞いて、このように理解しました。

私たちの奉仕は、R財団を通してより広く深く世界の隅々まで浸透していきます。R財団や米山奨学会への寄付は、ロータリアンの基本認識だと思えます。現在の認識では、奉仕は持続してこそ効果的であると考えられています。ロータリーの奉仕のモデルケースとも言えるポリオ撲滅活動のように長大な奉仕が必要になってきたというような背景もあるのだろうと思います。

どうぞ、ロータリーの曲がり角を実感してください。自分自身を、自分のクラブを見つめなおしてください。ロータリークラブの縮小や解散をイメージしなくなかったら、今から将来を考えておくことが必要です。将来に向けた戦略を考えてください。そして、それを実行することが求められています。クラブの実態や意識とRIの理念とは隔たりがあるかもしれません。すぐに実行できない場合であっても、RIの理念や動向を頭の片隅にとどめておいていただきたいと思います。

このような考え方を地区方針として提示させていただきます。ガバナーのみならず、各クラブの会員一人ひとりが同じ思いを共有していくことが大切です。クラブの支援をするのがRI役員としてのガバナーの役目ですが、同時にクラブの皆様によるガバナーへのご協力もお願いいたします。